

秋まき小麦の安定確収

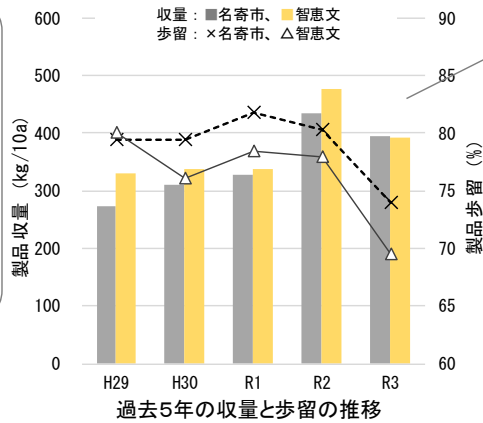
活動対象: 名寄市智恵文地区 秋まき小麦生産者37戸

対象地区では、穂数過多や病害発生による早期枯れ上がりなどにより、「きたほなみ」の製品歩留が低い。そこで、品種特性に合わせた栽培管理の周知、生育量に合わせた窒素施肥の実施、実態調査と分げつ追跡調査、栽培管理の実証に取り組んだ。

その結果、農業者に生育量に合わせた窒素施肥の重要性が理解され、一部の農業者が実践した。また、越冬前の生育の重要性を実感できた。

1 課題の背景

収量を上げたい。
細麦を何とかしたい。
過繁茂で倒伏が恐い。
「きたほなみ」に合った窒素施肥方法がわからない。



秋まき小麦「きたほなみ」の現状

- ・製品収量は平成389kg/10a
- ・年次変動が大きい
- ・製品歩留まりが低い

製品歩留が低い主な要因

- 穂数過多による細麦
- 病害発生による葉の黄化や早期枯れ上がり
- 土壌が堅密で根域が浅い

2 活動の経過

R4年度

- 品種特性と栽培管理を周知
懇談会、講習会、現地研修会
FAX情報、個別巡回
- 栽培実態調査
生育、収量・品質、土壌硬度等
調査結果はSNSで共有
- 生育量に合わせて窒素施肥方法を検討
調査結果を基に個別に検討
- 栽培管理の実証
窒素施肥体系、は種量 (R5年産)



秋まき小麦の安定確収

● 活動対象と関係機関の役割分担

名寄市

対象地域
37戸

核となる
9戸

麦大豆
良質生産
協議会

J A

麦大豆良質生産協議会事務局
現地研修会等の開催
活動内容や作業の進捗など情報交換

振興センター

実態調査に係る土壌分析

栽培実態調査、生育量に合わせて窒素施肥方法を検討、栽培管理の実証
品種特性と栽培管理を周知

普及センター

3 活動の成果

● 核となる9戸のうち7戸が生育量に合わせた窒素施肥を実施

農業者	起生期の茎数の茎数	生育量に合わせた窒素施肥の実施	生育量に合わせて変更した点 減らす 遅らせる 銘柄変更
A	2,280	○	○ ○
B	1,360	例年どおりの窒素施肥	
C	1,216	○	○
D	1,716	○	○
E	1,664	○	○
F	1,472	判断がつかなかった	
G	1,712	○	○
H	1,324	○	○
I	1,304	○	○



※起生期の茎数は、複数ほ場調査した場合はその平均値。



Point 定点ほ場を設け、調査結果を速やかに農業者と共有
生育量を数値で把握できたことで、施肥方法を客観的に判断



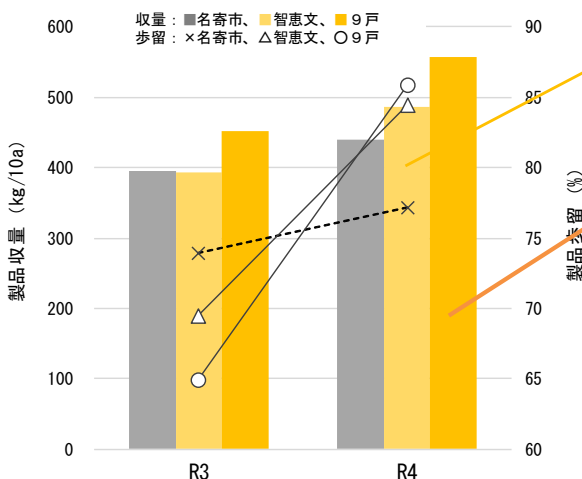
まずは過繁茂にしないこと！倒さないこと！
ほ場の生育量に合わせた窒素施肥が重要だ。
最近では生育量が多いから、は種量を減らせるかも。

判断がつかなかった。
次の春も一緒に見てほしい。



check 生育量は年によって変わる。
農業者と共に生育量を確認し、
窒素施肥方法を検討する必要がある。

● R4年産 製品収量、製品歩留は向上



智恵文地区：名寄市の平均を上回った

- ・製品収量 486kg/10a
- ・製品歩留 84%

核となる9戸：智恵文の平均を上回った

- ・製品収量 557kg/10a
- ・製品歩留 86%

気象条件の悪い年でも収量を確保したい。
安定して多収な人の栽培管理を知りたい。
もう細麦にはしたくない。
止葉期の病害防除も重要だと思うよ。



● 「きたほなみ」の品種特性を再確認



分けつ追跡調査の結果をほ場で確認

融雪後に出た茎は、穂として残りづらいことがわかった。
他の農業者にも見てもらった方がいい！

収量確保には、越冬前の生育が重要だ。
過繁茂にならないよう、は種量を調整したい。



Point 窒素施肥だけでなく
は種量の適正化も重要だと実感



4 今後の課題

- 融雪後の生育量に合わせた窒素施肥の定着
- は種量試験の結果に基づくは種量の適正化
- 生産組織及び関係機関と連携し、活動成果を対象地域及び名寄市全体へ周知